

公立大学法人金沢美術工芸大学  
平成25年度業務実績報告書

[論点整理表]

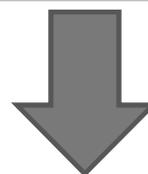
平成26年6月

公立大学法人金沢美術工芸大学

## □全体的実施状況

## 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

学生に質の高い教育を行い、教育目標を確実に達成するため、25年度については9名の新規採用があり、その選考の過程において、教員資格審査会及び教育研究審議会が、大学院指導資格基準に基づいて資格審査を行った。その他の教員については大学院指導計画では特に、博士学位審査に携わる教員を優先して行った。



学生に質の高い教育を行い、教育目標を確実に達成し、特に大学院教育に携わる教員の資質を担保するため、教員資格審査会及び教育研究審議会において、資格審査実施計画及び大学院教員指導資格基準に基づき26年度採用予定の教員9名の審査を行い、採用を決定した。

## 〔質問(実績文言修正)〕

- ・上記について意味が不明瞭なので明確な記述にするべきではないか。

□全体的実施状況  
3 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、北陸新幹線金沢開業を控え、首都圏、新幹線沿線からの誘客を強化するため、金沢の新しい観光資源を活用した富裕層対象の旅行商品、観光商談会のためのPRツールを提案・制作した。

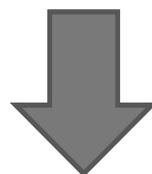


市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、北陸新幹線金沢開業を控え、首都圏、新幹線沿線からの誘客を強化するため、金沢の新しい観光資源を活用した富裕層対象の旅行商品、観光商談会のためのPRツール(観光ポスター・DMハガキ)を提案・制作した。

〔質問〕

・PRツールとは具体的に何を制作したのか。

総人件費の適正化として教員の定数管理を適正に行うため、学部退職教員3名の後任と3名の採用予定者と、大学院専任教員6名の退職に伴う任期付き教員6名の採用予定者をそれぞれ決定した。



総人件費の適正化として教員の定数管理を適正に行うため、学部退職教員3名の後任として3名の採用予定者(彫刻准教授  
工芸准教授、一般教育等講師)と大学院専任教員6名の退職に伴う任期付き教員6名(絵画、彫刻、芸術学、工芸、デザインの各教授、ファッションデザインの准教授)について採用予定者をそれぞれ決定した。

〔質問・追加説明〕

・学部退職教員および大学院専任教員の詳細はどうなっているのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
ア 芸術に対する高い資 質を持つ学生を募集し 確保するため、各科、 各専攻ごとに、それぞ れが求める学生像や能 力、適性等について入 学者受入方針を定め、 これに基づいた学生の 選抜を行う。	(イ) 入学者受入方針に応じた学 生の受入れを行うため、現行の 入学者選抜方法について再検討 し、その結果を実践する。	(ア) 22年度に策定した入学者受 入方針（アドミッション・ポリ シー）に基づき実施した25年度 一般選抜試験が、その受入方針 の実現にふさわしい選抜方法で あったか検証を行い、その結果 を入学試験に活かす。	○入試委員会において、25年度入学試 験を検証し、一般選抜試験及び特別選 抜試験ともに、アドミッションポリ シーに基づいた選抜内容・方法である ことを確認した。なお、確認に当たっ ては、専攻別の入学試験実績状況に関 する記録を利用し、選抜試験がアド ミッションポリシーの求める学生を見 極めるためのものとして適切であった か、また今後の選抜試験において改善 の必要性があるか、出題について工夫 の余地はないのか、という観点から検 証を行い、次年度以降の入学試験に反 映させることとした。    ○（前略）また今後の選抜試験にお いて改善の必要性があるか、出題に ついて工夫の余地はないのか、とい う観点から各専攻でアンケートによ る検証を行い、今後の課題、問題点 については次年度以降の入学試験に 反映させることとした。	III		資料1-1

〔実績記述修正、資料〕

・「業務実績」において「…次年度以降の入学試験に反映させること  
 とした。」とあるが具体的にどのような内容を反映させたのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
ア 芸術に対する高い資 質を持つ学生を募集し 確保するため、各科、 各専攻ごとに、それぞ れが求める学生像や能 力、適性等について入 学者受入方針を定め、 これに基づいた学生の 選抜を行う。	(イ) 入学者受入方針に応じた学 生の受入れを行うため、現行の 入学者選抜方法について再検討 し、その結果を実践する。	(イ) 入学者受入方針に応じた学 生の受入れを行うため、現行 の入学者選抜方法について再 検討し、その結果を実践す る。	○25年度入学者について、他大学の出 願状況を分析・検討した結果、引き続 き中期日程を採用することを確認し た。 ○25年度に入試日程が重なっている大 学との日程調整を図り、デザイン科に おいては、受験日程を変更した。   ○25年度入学者について、他大学の 出願状況を分析・検討した結果、本 学が中期日程に残ることにより、芸 術系大学を志望する受験生の国立 大学への受験機会が増加すること を確認した。(後略)	III		資料1

〔実績記述修正〕

・引続き中期日程を採用した具体的な理由はなにか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
ア 芸術に対する高い資 質を持つ学生を募集し 確保するため、各科、 各専攻ごとに、それぞ れが求める学生像や能 力、適性等について入 学者受入方針を定め、 これに基づいた学生の 選抜を行う。	(ウ) 大学院教育の門戸を拡大す るため、大学院定数や社会人入 学などを検討し、有効かつ実現 可能と認められるものについ て、具現化を図る。	(ウ) 大学院教育の門戸を拡大す るため各専攻において社会人入 学の可能性を検討するとともに 外国人入学にあたっての資格条 件緩和に向けて検討する。	○大学院教育の門戸拡大に向け、特に 外国人留学生の受験資格である在留資 格要件と日本語能力2級等要件の緩和 について大学院運営委員会において検 討し、26年度募集から「在留資格要 件」を削除することとした。加えて、 大学教育に必要な学術的日本語能力を 身につけてもらうため、アカデミック ジャパニーズの導入を決定した。   ○（前略）加えて、 <u>アカデミック                      ジャパニーズ(大学教育に必要な                      学術的日本語能力)をカリ                      キュラムに導入すること                      を決定した。26年度から試                      行し27年度からこれを実施                      する。</u>	III		資料2

〔質問・実績記述修正〕

・「アカデミックジャパニーズ」の意味は

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(イ) 人間形成のための教養教育を確保し、体系的な理論基礎教育を実践するため、一般教育科目と専門基礎科目の在り方を見直し、カリキュラムを充実する。【24年度改編】	(イ) 24年度に改編した一般教育科目と基礎実習科目の内容を検証しカリキュラムの充実を図る。	○24年度からの新カリキュラムの一般教育科目と基礎科目の内容を、学生アンケート等を基にしながら、各教員、各専攻、各科及び教務委員会で検証し、基礎科目における「造形表現工房」科目の充実を図るなどカリキュラムの充実を図った。  ○24年度からの新カリキュラムの一般教育科目と基礎科目の内容を、学生アンケート等を基にしながら、各教員、各専攻、各科及び教務委員会で検証し改善計画書を作成して、事務局前で学生や教員等の閲覧に供するとともに、その改善策をシラバスに反映させた。 また、基礎科目における「造形表現工房」科目の充実を図るなどカリキュラムの充実を図った。	Ⅲ		資料8-1 資料9 資料10 資料12 資料13

〔質問・実績記述修正〕

・「業務実績」に「…(前略)…一般教育科目と基礎科目の内容を、学生アンケート等を基にしながら、…(中略)…カリキュラムの充実を図った。」とあるが学生アンケート等の具体的な内容はどのようなものか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
<p>イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。</p>	<p>(I) 産学・地域連携研究を授業課題に活用するなど、社会と接点を持つ教育プログラムを検討し、実践的な教育を推進する。</p>	<p>(カ) 住民や行政、産業界等との連携により問題解決を行う工房教育（造形表現工房）科目の開講を目指す。</p>	<p>○平成26年度より自由科目の新科目として造形表現工房Ⅳ（素材・技術/ファッションデザイン演習）を開講を決め、地域の繊維産業界との連携につなげていく方策の手掛かりを探った。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>○平成26年度より自由科目の新科目として造形表現工房Ⅳ（素材・技術/ファッションデザイン演習）の開講を決め、現在は大学院修士課程にのみ開講しているファッションデザイン領域の授業を学部教育でも行うことで、地域の繊維産業に対する学生の意識を高め、ひいては産業界との連携につなげていく方策の手掛かりを探った。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>資料12 資料12-1</p>

〔実績記述修正〕

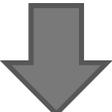
・業務実績記述の意味が不明瞭なので記載の修正が必要ではないか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
<p>イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。</p>	<p>(オ) 専攻にとらわれず、多様な芸術分野を学ぶことができるようにするため、学生が主体的に選択できる基礎的な共通科目を充実するほか、他大学等との単位互換の活用方法を検討し、有効かつ実現可能と認められるものについて、導入を進める。【24年度改編など】</p>	<p>(ケ) 24年度から開講した、専攻にとらわれず多様な芸術分野を学ぶことができる工房教育（造形表現工房）科目の充実に取り組む。</p>	<p>○24年度より開講した造形表現工房科目に加え本年度より造形表現工房Ⅳ（素材・技術/素材技術研究）と造形表現工房Ⅵ（語学理論/芸術と言語表現）の2科目を開講した。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>○24年度から開講した造形表現工房科目の充実を図るため、26年度から新たに造形表現工房Ⅳ（素材・技術/素材技術研究）と造形表現工房Ⅵ（語学理論/芸術と言語表現）の2科目を開講することとした。</p>	Ⅲ		資料9 資料13 資料13-1

〔質問〕

・造形表現工房Ⅳ（素材・技術/素材技術研究）と造形表現工房Ⅵ（語学理論/芸術と言語）は全体カリキュラムではどうなっているのか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
エ 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。	(7) 卒業生、修了生の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を策定し、これらを公表するとともに、成績評価基準については、学生の学修目標設定などに資するため、シラバスへ記載し、学生に明示する。【22年度】	(イ) 引き続き、シラバスの成績評価欄について基準を明確にするため記載を改善する。	○シラバスの成績評価について、本年度は教務委員会や大学院運営委員会での検討に加え、自己点検評価委員会からの意見を加味しその改善について各専攻等で確認を行い、26年度のシラバスに反映させた。    ○シラバスの成績評価について、本年度は教務委員会や大学院運営委員会での検討に加え、自己点検評価委員会からの意見を加味しその改善について各専攻等で確認を行い、具体的には各科目の「成績評価欄」のA～Cの「評価基準」を明記することを確認し、26年度のシラバスに反映させた。	III		資料18-1 27

【実績記述修正・追加資料】

・「年度計画」において「シラバスの成績評価欄について基準を明確にするための記載を改善する」とあるが具体的にはどう変わったのか。追加資料としてシラバスおよび関係委員会議事録の追加提出をお願いしたい。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
ア 学生に質の高い教育 を行い、教育目標を確 実に達成するため、教 育の内容や特性に即し た教員の適正配置を行 う。	(ア) 教育プログラムやカリキュ ラムの充実などに即した教員配 置計画を策定し、適正に配置す る。 【22年度策定】	(ア) 22年度に策定した教員配 置計画に基づき、適正に教員を 配置する。	○教員の定数管理を適正に行うため、 学部退職教員3名の後任として3名の 採用予定者と、大学院専任教員6名の 退職に伴う任期付き教員6名の採用予 定者をそれぞれ決定した。	Ⅲ		資料21 資料59-1

32

〔追加資料〕

・平成22年度策定の教員配置の基本的枠組か基本方針があれば資料として追加提出をお願いしたい。

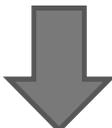
大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
<p>ア 学生に質の高い教育を行い、教育目標を確実に達成するため、教育の内容や特性に即した教員の適正配置を行う。</p>	<p>(ア) 教育プログラムやカリキュラムの充実などに即した教員配置計画を策定し、適正に配置する。                  【22年度策定】</p>	<p>(イ) 時代に即した教育内容の充実を考慮し、26年度採用候補者の選考を実施する。</p>	<p>○26年度の採用候補者の選考に当たっては、時代の要請と教育の内容の充実を考慮して、以下の9セクションの人事について公募又は推薦を受け、適正な手続きを経て採用予定者を決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・彫刻専攻においては、石彫を中心に、多様な素材・媒体を用いた表現に技術的、理論的に対応できる人材であること。</li> <li>・工芸科においては成形と加飾を中心とした陶磁の実技、理論が指導可能であること。</li> <li>・一般教育等においては、英語教育を担当でき、博士の学位を有し、留学経験を有すること。</li> <li>・大学院デザイン専攻ファッションデザインコースにおいては、任期付き教員とし、パターンメイキングを指導し、海外での実務経験を有し、ファッションビジネス全般に関わる理論と演習の指導が可能であること。</li> <li>・大学院専任教授として絵画、彫刻、芸術学、デザイン、工芸の各5領域の高度な理論的、技術的指導が可能な教授格の採用予定者を、各領域からの推薦でノミネートし、教員資格審査会及び教育研究審議会で審議し、決定した。</li> </ul>	<p>Ⅲ</p>		<p>資料21</p>

〔追加資料〕

・大学としての教員選考基準があれば資料として追加提出をお願いしたい。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
イ 教育活動を活性化し、学生の自主性や創造性を引き出すため、学生に対する学習指導体制を強化するとともに、教育研究に必要な施設、設備等の充実・整備を行う。	(7) 学生の学習支援を充実するため、自主的な学習や研究活動の支援に携わる教員を配置する。 【22年度検討、以降試行】	(7) 自由科目として造形表現工房科目を充実するとともに正課外の芸術活動等を支援する体制を引き続き検討する。	○26年度より自由科目の新科目として造形表現工房Ⅳ（素材・技術/ファッションデザイン演習）を開講することを決めた。  ○26年度より新たな自由科目の新科目として造形表現工房Ⅳ（素材・技術/ファッションデザイン演習）を開講することを決めるとともに、アートベース石引・問屋町スタジオ・柳宗理記念デザイン研究所での学生の自主的な学習成果の公開等、正課外の芸術活動の支援体制について検討した。	III		資料12 資料16 資料35

〔質問〕

・項目番号17では平成24年度から開講となっているが平成26年度からで良いか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
ウ 教育の質を向上させるため、教職員の資質向上を図るとともに、教育の方法や内容等について不断の見直しを行う。	(7) 授業内容や教育方法の改善及び教育を支える管理運営や事務部門の能力向上のための組織的な活動（FD・SD活動）に計画的かつ継続的に取り組み、全学的な教育力の向上を図る。	(7) 休退学者や単位未修得者を減少させるため、教務委員会で検討してきた改善策に基づき授業内容や教育方法を改善する。	○休退学者、単位未修得者の増減の把握（他大学との比較分析）、本学における増加の原因と問題点を理解するために教務委員会・学生支援委員会の合同会議を開き検討を行った。その結果に基づき授業においては学生からの授業アンケートを精査し、大学・教員側の改善計画書の作成・提示を実施するとともに、FD活動の一つである複数人による合同講評会など学生一人一人に応じたきめの細かい指導体制の強化を図った。	III		資料18 資料25

〔質問〕

・「業務実績」にある「…(前略)…その結果に基づき授業においては学生からの授業アンケートを精査し、大学・教員側の改善計画書の作成・提示を実施するとともに…(後略)…」とあるが具体的に教えて欲しい。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
ウ 教育の質を向上させるため、教職員の資質向上を図るとともに、教育の方法や内容等について不断の見直しを行う。	(イ) 教育内容の改善を進めるため、教員による授業相互評価について検討し、導入を図る。 【22年度試行】	(エ) 24年度まで実施してきたピアレビューの結果を評価し、授業相互評価制度の充実を図る。	○これまでのピアレビューの記録紙は研究所の教育研究センターで一括管理し、必要に応じて教員、専攻にフィードバックしている。専攻間や専攻内教員間でピアレビューの制度の充実と改善を図った。	Ⅲ		資料18

42

〔質問〕

・具体的にはどのような方法なのか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
ウ 教育の質を向上させるため、教職員の資質向上を図るとともに、教育の方法や内容等について不断の見直しを行う。	(エ) 教育内容の向上を図るため、学生の卒業後の動向や活動状況の調査、卒業生、就職先企業等からの意見聴取などを通じ、大学の教育に対するニーズの変化を的確に把握する体制を整える。【中期】	(キ) 卒業生等からの意見に基づいて教育成果を検証する仕組みを構築する。	○卒業生を対象とした教育成果に関するアンケートを実施し、その中の大学教育への意見等から問題点を抽出した。 ○デザイン科では就職対策等で企業訪問した際に個別にヒアリングを行い、デザイン科会議等で共有しながらカリキュラム検討を行い、今年度は1年生共通演習を前期に集中するなど対応した。  (前略) ○デザイン科では、各専攻の就職担当教員が企業担当者から求められている人材像やスキルについてヒアリングした結果を、専攻会議やデザイン科会議等で共有しつつカリキュラムを検討し今年度は基礎演習を1年次の前期に3専攻同時で行うことで、早い段階で就職へ向けたノウハウを取得させ、基礎能力を身につけた上で、各専攻の基礎演習を行い、効率的でレベルの高い教育を実現する環境を整えた。	III		資料20 45

〔実績記述修正〕

・「年度計画」にて「…(前略)…教育成果を検証する仕組みを構築する。」とあるがどのような体制(〇〇委員会)で実施されているのか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
イ 学生が充実した学生生活を送ることができるようにするため、生活面での支援体制を充実する。	(7) 学生相談室の機能の向上やメンタルヘルス指導を充実する。	(7) 大学生生活全般に関する相談指導に学生相談室で積極的に対応する。	○学生相談室に専門の心理カウンセラー1名、産業カウンセラーの資格を有する非常勤職員であるインテーカー1名、保健担当看護師1名のほか、各科の教員5名を配置して、大学生生活全般に関する相談指導に積極的に対応した。 ○心理面や修学面で問題を抱える学生を対象に年間307件のカウンセリング（実数55人）を行ったほか、欠席がちの学生や心理面から学修に支障が生じていると思われる学生を抱える教員や保護者を対象に107件のコンサルテーション（実数33人）に対応した。 ○新入生に対してはUPI精神健康調査を実施し、その中の30名に対して個別面談を行い、健康状態が思わしくないと思われる学生に予防的な介入を行うなどの個別指導を行った。	Ⅲ		資料26 資料29

〔実績記述修正〕

・「業務実績」にて「…(前略)…健康状態がおもわしくないと思われる学生については予防的な介入を行うなどの個別指導を行った」とあるが「予防的な介入」とは具体的にどのようなことを実施したのか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
イ 学生が充実した学生生活を送ることができるようになるため、生活面での支援体制を充実する。	(イ) ハラスメントに関する学生への教育と教職員研修を行い、発生防止を徹底する。	(イ) ハラスメントに関する教職員研修や学生への教育を実施する。	<p>○学生と教職員のハラスメントの防止に関しては、学生便覧に「金沢美術工芸大学キャンパスハラスメントガイドライン」を掲げ、年度初めのガイダンスにおいて全学生に周知した。新任教職員に対しては、初任者研修会を開催し、「学生との接し方」について、担当理事から研修を行った。</p> <p>○教職員研修として、金沢工業大学の塩谷亨先生を講師に招き、「アサーションで学ぶ対人コミュニケーション」を演題として大学における教育方法向上のための研修を実施した。</p> <p>○金沢市主催の公務員倫理・人権研修に事務局職員3名を派遣した。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>(前略)</p> <p>○教職員研修として、金沢工業大学の塩谷亨先生を講師に招き、「アサーションで学ぶ対人コミュニケーション」を演題として大学における教育方法向上のための研修を実施した。</p> <p><u>※アサーションとは (assertion) より良いコミュニケーションスキルの一つで、お互いを尊重しながら率直に自己表現ができるようになることを目指すものです。</u></p>	III		資料27 資料32

〔実績記述修正〕

・「業務実績」に記載のある「アサーション」とはどのような意味か。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
イ 学生が充実した学生生活を送ることができるようにするため、生活面での支援体制を充実する。	(ウ) 学生生活の経済的な支援を充実する方策を検討し、有効かつ実現可能と認められるものについて、財源の確保に取り組み、効果的な支援制度の構築を目指す。	(ウ) 教育研究基金を活用して、生活支援を目的とした奨学金制度について検討する。	<p>○教育研究基金を活用して、経済的な理由により修学の継続が困難となった学生に対する奨学金制度として、26年度からの運用を目指して「緊急支援奨学金」について具体的に検討した。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○教育研究基金を活用して、経済的な理由により修学の継続が困難となった学生に対する奨学金制度として、26年度からの運用を目指して「緊急支援奨学金」について教育研究審議会で具体的に検討した。</p>	III		資料33

〔質問〕

・「業務実績」に記載のある「…(前略)…26年度からの運用を目指して「緊急支援奨学金」について具体的に検討した。」とあるがどの委員会において検討がなされたのか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
イ 学生が充実した学生生活を送ることができるようになるため、生活面での支援体制を充実する。	(イ) 福利厚生面での充実を図るため、学生の意見を広く聴き、改善に努める。	(イ) 学生自治会等との意見交換等を実施し、学生の意見を聴き、学内環境の改善に努める。	○学生自治会執行部と3回の会合を行い、自治会が主管する行事の改善へ向けての話し合いを行った。 ○学生自治会は総会及び代議員会を開き、活発に学生の福利厚生に関する話し合いを行っており、クラブ活動の活性化、部費配分事務、新規クラブの活動を支援するための部室の提供等の課題については大学側との交渉を経て解決が図られている。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         ○大学は、<u>学生自治会執行部と3回の会合を行い、自治会が主管する行事の改善へ向けての話し合いを行った。</u>                          ○<u>学生自治会は総会及び代議員会を開き、活発に学生の福利厚生に関する話し合いを行っており、大学はその意見を基にクラブ活動の活性化、部費配分事務、新規クラブの活動を支援するための部室の提供等の課題について、学生自治会との交渉を経て解決を図っている。</u> </div>	III		

〔業務実績修正〕

・「業務実績」記載の主語は「大学」ではないか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (3) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
<p>市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。</p>	<p>ウ 大学の知的資源の特性を生かし、他大学や各種研究機関との共同研究を実施する。</p>	<p>ウ 他大学や研究機関等との連携                      (7) 医療分野における芸術の可能性に関する調査研究を金沢市立病院及び金沢大学と共同で行う。</p>	<p>○金沢市立病院を会場にして、「第2回ホスピタル・ギャラリー」、「第14回ホスピタリティ・アート・プロジェクト光の回廊シリーズ(その5)」を行い、さらにアンケートを通して調査研究を行った。                      ○金沢大学附属病院渡り廊下ドライエリアの景観整備についての調査研究を美大環境デザインが行い、「光庭モニュメント「宝の島」」を制作した。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>(前略)                      ○金沢大学附属病院渡り廊下ドライエリア(地下室をつくる際にできる地下の屋外空間)の景観整備についての調査研究を美大環境デザインが行い、「光庭モニュメント「宝の島」」を制作した。</p>	<p>III</p>		<p>資料51 78</p>

〔業務実績修正〕

- ・「業務実績」記載の「ドライエリア」とはどのような意味か。

業務運営の改善及び効率化に関する目標 1 組織運営の改善に関する目標 (2) 教育研究組織の見直しに関する目標				自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)			
特色ある教育研究を推進するとともに、社会の教育研究に対する要請や学生の学習需要の変化等に対応するため、教育研究組織について不断の見直しを行う。	イ 客観的、合理的な改善等を推進するため、自己点検・評価はもとより、第三者評価機関の意見や評価結果などに基づき大学運営を改善する。	イ 自己点検・評価及び金沢市の評価委員会など第三者評価機関の意見や評価結果などに基づき、大学運営の改善を進める。	<p>○公益財団法人大学基準協会による大学評価に向けて、25年度末に提出する自己点検・評価報告書作成作業の中で、これまでの第三者評価機関からの指摘項目を再確認し、改善すべき事項で実施できていない事項について、自己点検・実施運営会議から各部署に指摘した。</p> <p>1. 成績評価基準の明示 2. 正面玄関のスロープ</p>  <p>○公益財団法人大学基準協会による認証評価（平成20年4月1日）において、「助言」として、①理念と教育目標の整合性、②シラバスの精粗の是正、③学位授与基準の明示、④バリアフリー化の推進の4点が取り上げられた。①②③については、法人化への移行準備の過程で既にこれを順次改善してきたが、特に③については、シラバスの精粗に止まらず「成績評価の基準」を明示し、平成25年までに概ねこれを達成した。④についても平成24年に正面玄関のスロープを敷設して、バリアフリー化の推進につとめている。この他FDに</p>	Ⅲ	資料27 資料58	97

業務運営の改善及び効率化に関する目標 1 組織運営の改善に関する目標 (2) 教育研究組織の見直しに関する目標						
中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
			<p>については自己点検評価実施運営会議及び教育研究センターが中心となって、この実施に取り組んでいる以上の大学運営の改善については26年4月1日に大学基準協会に提出した『自己点検・評価報告書』に改善実態をまとめている。</p>	III		資料27 資料58

〔質問・説明〕

・「業務実績」において「…(前略)…これまでの第三者評価機関からの指摘項目を再確認し、改善すべき事項で実施できていない事項について自己点検・実施運営会議から各部署に指摘した。」とあり、1.成績評価基準の明示 2.正面玄関のスロープとあるが指摘事項はこの2点だけなのか。

業務運営の改善及び効率化に関する目標 2 事務等の効率化・合理化に関する目標						
中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料番 号
新しい運営体制に即した事務処理を行うため、現行の事務処理を見直し、事務の効率化及び合理化を図る。	(3) 学内での監査機能を担保するため、組織内部で相互牽制が働く体制を整える。【22年度】	(5) 適正、公正、安定を確保した実効性ある内部監査を行う。	<p>○教学組織の教員研究費について、美術工芸研究所のプロパー職員が領収書等の精査を行い、さらに教育研究審議会委員が年度末にその確認を行い、適正、公正な研究費の執行を監督した。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>○教学組織の教員研究費について美術工芸研究所のプロパー職員及び事務職員の複数体制で領収書等の精査を行い、さらに教育研究審議会委員が年度末にその確認を行うことで、<u>適正、公正な研究費の執行を監督した。</u></p>	Ⅲ		資料61-1 106

## 〔質問・説明〕

・「業務実績」において記載のある「プロパー職員」とは専門職員か。